

救護第11班 3月25日～3月30日 看護師・小森田小百合



鳴瀬庁舎に仮設の救護所を設置して救護活動を始める時期。26日はJA鳴瀬に特殊医療救護車両(ディザスター)とテントで救護所を開きましたが、27日は庁舎に大型テント2張りを設置、ドクターカーを常駐して仮設救護所を開設しました。



設営中に挨拶に来られた庁舎の男性が突然倒れたため、ドクターカーで石巻赤十字病院へ搬送しました。狭心症で、震災から休む間もなく被災者の世話をされていたそうです。午後には妊婦の方を自宅から石巻赤十字病院へドクターカーで送りました。救急車は来ず、移動手段もないため、ご主人が救援を求めてテントに来られました。

救護所の周りには災害の爪跡がまだ残っていて、50メートルくらい行くと家がヘドロだらけだったり、保育園の門柱の上に車が乗っかっているとか。地震は28日朝に震度5弱くらいのがあって津波警報も出て、すごく怖い思いをしました。この日は午前中は受診者がいなくて午後から50数人。地震があったので外出を控えた方が多かったようです。

被災地の方はすごく前向きで、力強さを感じましたが、救護所に来た子どもたちはお母さんから離れるのを怖がっている様子。地震や津波は子どもの目線ではそれだけ大きく感じ、ストレスがかかってるんだと思いました。接していると次第に笑顔が出てきます。子どもが元気になるとそれだけ私たちも励みになりました。